

進路室だより

静岡県立富士高等学校進路課

学び続けよう —2022年度入試を振り返る—

共通テスト2年目となった今年度入試も終わりました。2年目で難化するとの見方もあった共通テストは実際に難化する結果となりました。平均点は「数学I・A」をはじめとして7科目が、センター試験を通じて過去最低点となりました。かねてから言われていましたが、出題の特徴については、全体的に授業での学習プロセスや日常生活の場面を題材にした問題や、複数の資料・図等から情報を読み取って考察する力を重視する問題が目立ち、問題文の読解に時間がかかる傾向が顕著にみられました。全国を受験生が苦戦を強いられ、前年度より軒並み全体平均を下げる中、本校の下げ幅は県下で最も小さく、富士高生は頑張りを見せました。2学期当初、「第一志望校を安易に諦めることなく、最後まで諦めずに取り組んでいこう」「全員で頑張るという雰囲気作りをしよう」と、生徒達に訴えました。放課後補講への取り組みや難関大模試への挑戦等、生徒達は主体的に学習してくれました。11月の初旬には、志望校が同じ生徒達を個々に集めて、諦めず努力を続けるよう激励するとともに、敢えて他者に志望を知らせることで仲間意識を持たせ、互いに切磋琢磨していこうという雰囲気作りをしました。大いに刺激を受けたように見えましたが、力強い目つきに安堵したことを覚えています。更に、直前補講、英語や地歴の添削をはじめ、各々が計画した学習に意欲的に取り組み、着実に実力を伸ばしました。全ての生徒が納得のいく結果につながられたわけではありませんでしたが、生徒達はよく健闘しました。結果にかかわらず、自身と真摯に向き合い必死に学習した経験は、今後の生徒達の大きな財産になるものと確信しています。あわせて保護者の皆様の御理解と御協力にも、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

この学年は、入学以来新しい事に取り組んできました。総合探究の時間は「心見考」と名付けられ、【思考力】【判断力】【課題解決能力】【表現力】を磨いてきました。答えのない問いに対して自身で考え、考えたことを周囲に伝え、他者と協働しながら自身の考えを深めていく。手探りの状態でスタートし、教育と探究社を始め、様々な業者や専門家の意見を伺いながら試行錯誤を繰り返しました。ただ教えられるだけの生徒から、自ら学びを創り出し深めていく生徒へと変わって行かなければいけない。多種多様な課題への取り組みで身に付けた力が、受験の際に大いに役立つものと信じて3年間取り組んできました。3年次に、20年後の自身の姿について堂々と語る姿を目の当たり

にした時、心見考の成果を感じました。心見考での取り組みをきっかけにして、授業や家庭学習においても目標設定し、結果に至るまでのプロセスを自身で組み立てられるようになること、物事の本質を考え主体的に学習することを目指しました。自身の課題を明確にし、計画的に取り組む力を身に付けてくれたと思います。

改めて、「何の為に大学へ行くのか」について考えてみました。大学に入ることが目的ではありません。大学でどのような術を身に付け、どのような人生を歩むのかを考え尽くすことが大切です。知識が豊富であることは言うまでもないことですが、物事を突き詰めて深く考え、その知識を活かして「自分ならこうする」という自分の考えを持つことが重要だと思います。「勉強した学問を生かしてどのように社会に貢献していくのか。」「学びは大学生活だけでは終わらない。」社会の激しい変化に対応するためには、生涯学び続けなければなりません。校歌の歌詞「国家有為の材たるべし」のような存在を目指し、日々成長していかなければならないと思います。

高校生活を振り返ってみると、新型コロナウイルスの影響で教育活動に支障が出る中、様々な場面で我慢を強いられました。しかし、学校や生徒達の努力とたくさんの人々の協力によっていくつかの困難を乗り越えてきました。これからも、先行き不透明な時代だからこそ、何を考えてどう行動するかということに真剣に向き合わなければなりません。

卒業式で胸を張って式場をあとにする姿や、教職員に丁寧にお礼を述べている様子を見て頼もしく思いました。新時代の人材像として思考力や創造力が重視され、より主体的で深い学びが求められていくことは確かです。卒業にあたり、私は生徒達にこんな言葉を送りました。

「やらない言い訳より、知恵を出して行動しよう。社会の激しい変化に対応するため、生涯学び続けよう」

私自身もこの3年間を謙虚に反省しつつ、新たな年度を生徒達とともに歩んでゆこうと思います。向上心を忘れず、学び続けようと思います。

末筆となりましたが、すべての皆様が平穏で幸せな日常を取り戻すとともに、卒業生諸君の更なる活躍と、自立した「成人」となることを心から祈念します。

2021年度 第3学年部主任 松本晶則

1. 合格者数一覧

大学種別コード	現 役		既 卒 者		現・既 計		計	
	本年度	(昨年度)	本年度	(昨年度)	本年度	(昨年度)	本年度	(昨年度)
国立大学	153	(145)	8	(9)	161	(154)	215	(196)
公立大学	53	(39)	1	(3)	54	(42)		
私立大学	1110	(951)	30	(31)	1140	(982)	1140	(982)
国公立短期大学	3	(3)	0	(0)	3	(3)	5	(7)
私立短期大学	2	(4)	0	(0)	2	(4)		
文科省所管外大学	4	(5)	0	(1)	4	(6)	4	(6)
各種学校・専修学校	4	(2)	0	(0)	4	(2)	4	(2)
総 計	1329	(1149)	39	(44)	1368	(1193)	1368	(1193)

2. 合格状況の分析

(1) 国公立大学

国公立大学の一般選抜の志願者数は、42万8,657人と前年から約3,200人増加、募集人員に対する志願倍率は前年同様の4.3倍となった。国公立入試の中心となる前期入試の志願者数はおおむね前年並みとなった。18歳人口は前年から2万人減少したが、国公立大学をめざす受験生は大きく減らず、堅調に志願者を集めた。センター試験を例にとると、平均点が大きく下がった年は国公立大学の出願を諦める受験生が増え、特に募集人員が少なく難易度が高くなりがちな後期日程でその影響が顕著だったが、本年度は共通テストの平均点が大幅ダウンとなった状況の中でも前向きに出願した受験生が多かった様子が伺われる。

2022年度入試における本校の国公立大学現役合格者数は206人（総合選抜・学校推薦型含む）であった。共通テストの平均点が大幅ダウンし、コロナ禍での不安に揺れた昨年に続き、志望動向の読みづらい入試となった。合格した生徒の多くは、最後まで諦めずに直前補講や個別指導をしっかりと受け、真摯に勉強に向かっていた。その結果、後期試験でも旧帝大の北海道大学や九州大学、千葉大、名工大、電通大など17名の生徒が合格を勝ち取った。また英語検定を利用し、合格した生徒も多数いた。

難関国公立大学の結果（ ）内は昨年度人数

東京1名(3) 京都4名(3) 医学部医学科4名(4)
東京工業1名(2) 大阪3名(4) 東北11名(7)
名古屋8名(4) 北海道4名(3) 九州2名(2)

(2) 私立大学

昨年度の志願者数が延べ数で50万人以上、14%も減少した反動か、志願者数の前年比は103%増、志願者数合計が10万人超えの大学も昨年より増えた。入試方式別に見ると一般方式が104%であるのに対して、共通テスト利用方式は101%であった。これには共通テストの平均点が低得点となったことが影響していると考えられる。一方、本校では共通テスト利用で合格を勝ち取った生徒も多数を占めた。この結果は、本校生徒が全国平均が大きく下がった中でも大きく点数を下げることなく、確かな力を身に付けていることの表れであり、最後まで5教科7科目を学び続けることの重要性を改めて認識するものであった。

難関私立大学結果（ ）内は昨年度人数

早稲田14名(12) 慶應義塾5名(4) 上智4名(4)
東京理科21名(23) 立教14名(11) 明治53名(27)
同志社18名(15) 立命館47名(20)

3. 校内実力テスト偏差値平均による国公立大合格状況（現役）

5教科 平均 偏差値	令和4年度入試						令和3年度入試						合格率(%)	
	受験者(延べ)			合格者(延べ)			受験者(延べ)			合格者(延べ)			R4年度	R3年度
	文	理	計	文	理	計	文	理	計	文	理	計		
60以上	14	31	45	11	18	29	9	23	32	7	19	26	64.4	81.3
59～58	7	17	24	4	9	13	7	11	18	5	9	14	54.2	77.8
57～56	9	11	20	7	8	15	8	21	29	6	17	23	75.0	79.3
55～54	19	20	39	16	18	34	5	20	25	4	12	16	87.2	64.0
53～52	4	14	18	1	11	12	10	25	35	6	15	21	66.7	60.0
51～50	10	18	28	9	12	21	7	27	34	4	15	19	75.0	55.9
49～48	10	22	32	6	13	19	7	24	31	4	15	19	59.4	61.3
47～46	18	21	39	12	11	23	12	22	34	7	16	23	59.0	67.6
45～44	7	17	24	2	11	13	9	13	22	3	4	7	54.2	31.8
43～42	8	16	24	7	6	13	5	17	22	2	10	12	54.2	54.5
41～40	2	10	12	0	4	4	3	5	8	0	0	0	33.3	0.0
39～38	2	11	13	0	4	4	4	6	10	0	1	1	30.8	10.0
37以下	3	4	7	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
合計	113	212	325	77	125	202	86	214	300	48	133	181	62.2	60.3

※3教科型（私立文系型）の者は含まない。

最近3年間の卒業生の合格状況

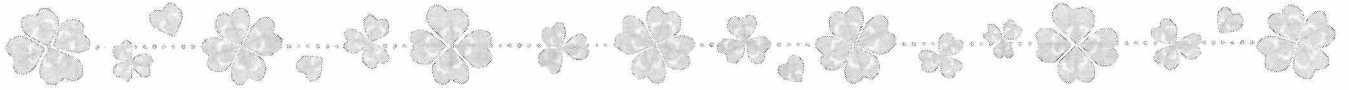
1. 校種別合格者延数

校種 現・既別 入試年度	国立大		公立大		私立大		短大・準大・各種		合計	
	現役	既卒者	現役	既卒者	現役	既卒者	現役	既卒者	現役	既卒者
令和4年度	153	8	53	1	1110	30	13	0	1329	39
令和3年度	145	9	39	3	951	31	14	1	1149	44
令和2年度	161	12	41	3	880	103	10	0	1092	118

2. 校種別・系統別による現役合格者延数

校種 系統 入試年度	人 文			法.経.商.社会			理 工			医 歯 薬 医 療			教 育		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
国立	12	12	19	30	13	22	59	71	61	12	13	20	24	18	21
公立	4	4	7	16	10	11	9	8	4	17	13	13	0	0	0
私立	176	164	196	369	193	180	281	307	222	111	131	110	47	57	60
国公立短	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	6	0	1	0	0
準大・各種	0	1	0	0	0	1	2	2	3	1	2	1	0	0	0
合計	192	181	222	416	216	214	351	388	290	143	165	144	72	75	81

校種 系統 入試年度	農 水 産			家 政			そ の 他			合 計		
	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2	R4	R3	R2
国立	8	8	14	3	0	4	5	10	0	153	145	128
公立	1	2	1	0	0	4	6	2	1	53	39	42
私立	30	20	87	49	20	15	46	59	10	1109	951	763
国公立短	0	0	0	1	1	0	0	0	0	5	7	5
準大・各種	0	0	0	0	0	4	0	0	1	3	5	9
合計	39	30	102	53	21	27	57	71	12	1323	1147	947



2022年度入試を振り返って

旧3年部進路課

大学入学共通テスト概況分析

今年の共通テストも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたほか、また、数学の平均点が大きくダウンするなど、波乱に満ちた年となった。今年の平均点は過去最低となった。ただし、共通テストは試行調査の段階では平均点5割を想定し作問されていたこと、もともとセンター試験とは別の試験であるという視点で立てば、今後は今年の平均点に近い値で推移していくことも十分考えられる。

2年目を迎えた今年の共通テストだが、全体的に授業での学習プロセスや日常生活の場面を題材にした問題が目立った。たとえば日本史Bでは「人名からみた歴史」を題材に、会話の形式で古代から近代まで幅広く取り上げ、様々な資料をもとに考察することが求められていた。会話文や生徒のノートの形をとった資料は他の科目でも散見され、問題文の読解にかかる時間はセンター試験時より長くなる傾向にある。複数の資料、図などから情報を読み取って考察する力が重視されている点も昨年と同様であった。昨年に比べ、図表の量が減少した科目も見られたものの、より丁寧な資料の読み取りが必要となっており、単に図表や資料を多用するのではなく、思考力を問うパーツとして資料、図表を活用していく姿勢はむしろ鮮明であった。なお、数学や理科では単元をまたいだ融合問題もみられた。解答形式にも共通テスト以降、新しい形式がみられる。理科ではセンター試験時にはなかった数値を直接マークする設問が出題された。また、選択肢に「誤りを含むものはない」「両方とも当てはまらない」が含まれている設問、正解の数と組合せが異なる選択肢が並ぶ設

問など、地歴公民、理科を中心に、より偶然の正解がしにくい解答形式がみられた。

7科目がセンター試験時を通じ過去最低点であった。今年の平均点は7科目文系型(900点満点)が507点(前年差-48点)、7科目理系型(900点満点)が510点(前年差-61点)と、前年から大きくダウンした。「数学」「化学」の平均点ダウンにより、理系型でよりダウン幅が大きくなった。

(参考 河合塾2022年度大学入試共通テスト概況分析)

記述力をつけよう

今年の共通テストの平均点は大幅に下がり、自己採点後の教室では目標点を大きく下回った生徒達は内心かなり落ち込んでいたにちがいない。しかし、戻って来た判定はそう辛いものではなく、全体的に難化したことがわかった。その後は今まで自分が考えてきたケースをもとに大学を決め、多くの生徒が合格を手にした。合格の決め手はその大学に行きたいという強い気持ちと個別試験に対応できる二次力だと感じた。合格した生徒の多くは志望する大学の問題を徹底的に解き、補講に参加し、個別指導をしっかりと受けていた。最後まで諦めず、真摯に勉強に向かっていった。記述力はすぐにはつかない。1、2年生の頃にどれだけ基礎力をしっかりつけたかが決め手になる。毎日の授業を大切にしていって得意を伸ばすとともに苦手をなくす努力が必要になると感じた。

(旧3年部進路課 石川貴子)





各学年主任より

「合格への鍵」

1年学年主任 石川 貴子

富士高校での生活がスタートして1ヵ月が経とうとしています。多くの1年生にとって期待と不安の入り混じった1ヵ月だったのではないのでしょうか。高校の学習や部活動は自分が思っていたより大変だと感じていると思います。私はこの3月本校を卒業した生徒達と3年間共に学校生活を送ってきました。多くの生徒が進路実現を果たし新生活に胸を膨らませながら本校を卒業していきました。しかし3年前は、今の皆と同じように勉強と部活動の両立に悩み、目標が決まらず、自分探しに悪戦苦闘していました。安心してください。今は不安でも、次第に高校生活に慣れ、自分の居場所を見つけ、進路実現に向けて頑張れるようになります。今は大変ですが、富士高の指導を信じてついてきてくれれば大丈夫です。

では具体的にどんなことを心掛ければいいのでしょうか。私が卒業生から感じた「合格者の特徴」について5つお伝えしたいと思います。

① 大学へ進学する目的がはっきりしている

将来やりたいことや行きたい大学があるとモチベーションが上がります。自分の夢を具体化できるので勉強のやる気が出ます。課題に取り組む際も、何のために勉強しているかを常に考えることができ、有効に活用できます。

② 好奇心が強い

何かについてもっと知りたいという気持ちが、さらに知識を得たいという気持ちを生み、学力向上につながります。卒業生の中にもそういう人達がいました。本を読むことが好き。数学の解法を互いに教え合いながら問題を解くことを楽しむ。授業や心見考で学んだことをきっかけに、そのことについて知りたいという気持ちを持ち、自分でも調べる。疑問に思ったことを質問する。学ぶ意味と目的をしっかり考え、楽しみながら勉強している。そういう生徒達が成績を伸ばしていました。

③ 時間の管理ができる

勉強が習慣化している。起床時間と就寝時間を決め、規則正しい生活をする。隙間時間も無駄にしない。

④ 自己分析ができる

自分の弱点を把握し克服に努める。自分の得意を伸ばし楽しんで学べる。自分の志望校のレベルがどれくらいで自分はそこからどれくらい離れているかを冷静に分析し、何が不足かを見極め、それを埋める努力ができる。自分に合った勉強方法や生活リズムを確立している。

⑤ 熱中体験を持つ

部活動、生徒会活動、ボランティア活動、読書など勉強に関係ないことに没頭する体験を持つことも実は学力を伸ばす大きな要因になります。考える力がつき、そこで学んだストラテジーは勉強にも活かせます。

逆に点数だけに固執し、返却されたテストの点数だけを見て一喜一憂することは不合格につながります。テストや模試が終わってやるべきことは、どこを間違えたかを確認して、ミスを次に活かすことです。テストをやってやりっぱなしにすると合格への道は遠のきます。

最後に、富士高は縦(卒業生)のつながりが強いです。先輩からの教を参考にすることはみんなの強力な武器になります。OB講話への積極的な参加、『進路の道標』を読むことが大学生活や学習についての不安を払拭し、モチベーションをあげる助けになります。特に先輩通信は富士高にいるから教えてもらえる特権です。そうした機会をうまく活用することもまた合格の鍵になるでしょう。



「主体的な学習を」

2年学年主任 青木 照明

1年前、富士高に入学し、課題テスト、初期指導、役員決め、対面式、応援練習、……。目まぐるしく日々を過ごし、気がついたらゴールデンウィークだったのではないだろうか。富士高の洗礼を受けて、いつの間にか富士高生になっていったはずだ。荒波にもまれ、いつしか当初の志を失った生徒も、今なお入学してからの夢や目標を追い求めている生徒もいる。

進級し、新しいクラスメート、新担任との生活が始まり、入学時と同じような緊張感を持って、第2学年の生活を送っていると思う。2年生では文理別の授業が増え、すべての教科において、1年次より学習内容が難しくなる。また、2年生は勉強だけでなく、部活動や学校行事において、3年生の引退後には、学校の中心的役割を担うことが期待される。君たちにはその役割を自覚し、ぜひ後輩の手本となる行動をしてほしい。

昨年度の卒業生は、ここ数年で最高の進路結果を残した。その一つの要因として、3年間実施した、模試の振り返りが考えられる。君たちも1年間模試の振り返りを実施してきた。自分の進路実現のために、これからも模試の振り返りをしっかりやってもらいたい。

桜のつぼみが冬の寒さに耐えながらも力を蓄え、暖かな春の訪れとともに一気に花開くように、2年生の1年間は地道な努力を続けることで確かな力を養い、3年生で「進路目標実現」という花を咲かせるための準備期間と考えることができる。これまでに培った基礎・基本を土台にして実力を養成するためには、与えられた課題だけでなく、自己を分析して取り組むべき課題を見つけ、自ら学習を組み立てる姿勢が必要となる。この一年の間に、どれだけ実力を養えるかは君たち次第。我々と一緒に頑張ろう。

「勉強というものは、いいものだ」

3年学年主任 野村 保

「真にカルチベートされた人間になれ」(太宰治) …日頃から、自分がふとしたときに心をよぎる言葉です。

『勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もあるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強しておかなければならぬ。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのはカルチベートされるということなんだ。

カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記していることではなくて、心を広く持つということなんだ。つまり、愛するという事を知ることだ。

学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いの

だ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようと焦ってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ。これだけだ、俺の言いたいのは。』

これは、太宰治『正義と微笑』より引用したものです。自分も尤もだと思います。

「不勉強だった人はエゴイスト(=他人の言葉を理解できない自分勝手な人)」「勉強の訓練の底に一掴みの砂金が残っている」「その学問を無理に役立てようと焦ってはいかん」本当に的を射ていると思います。「カルチベート」とは「耕す・耕作する・磨く・洗礼する・養殖する・培養する・養う」という意味です。まとめると「真にカルチベートされた人間になれ」とは「勉強をすべき時にしっかりと学べば、人間として、心優しく大きな人間になれるぞ。」ということなのです。

もともと、勉強をする意味とは、自分で自分を成長させる人間づくりです。その成長を実感できることは楽しいことだと思います。「知識を誇る必要」はないのです。いつの日からか、自分にとって深く心に残る言葉の一つとなりました。

卒業生より

東京大学 文科Ⅲ類 伊藤 なつみ

3年生のみなさんはそろそろ受験勉強が始まる頃かと思えます。志望大学が決まっている人もいない人もいます。

私が東京大学を第一志望にしたのは夏休みでした。かなり遅いスタートでしたが、先生の助けもあり無事合格することができました。

私は地道な勉強が苦手だったのですが、友達に聞かれたことを教えたり、リスニングはTedの動画を見たりして、自分が楽しめる方法で勉強しました。

また、先生が直接二次試験の指導をしてくださったことで、論述の力がつけられました。

私が東京大学に合格できたのは、そうして一緒に勉強してくれた友達や、熱心に遅くまで付きっきりで指

導してくださった先生方のおかげです。

これから受験勉強を始める皆さん、受験勉強は大変でつまらなくて苦しいです。でも、友達や先生がいればなんとかなります！頑張ってください。

1、2年生のみなさんは、まだ受験勉強の時期ではないかもしれませんが、私は受験勉強をする時に、古文単語や英単語、英文法や歴史の基礎暗記が全然完成していなくて苦労しました。

今のうちに付けるべき知識はつけた方がいいです。小テストや定期テストで問われる知識は受験でも使います。

3年生になったときに後悔しないように勉強したほうがいいですよ！

京都大学 工学部 横内 佑哉

この文章で私が伝えたいは、「主体的であれ」ということに集約されます。このことは、高校紹介の際に耳にし、おそらく校訓よりも聞いた言葉だと思えますが、今回は少し踏み込んでこれについて述べたいと思います。以下、2つの具体例を示します。

まず、学校生活について。第一に、授業や課題、試験はそれ自体で目的たることはありません。ある目的のための手段です。ですから、内容をすでに理解している回の授業を、半ば無心でただ聞くだけであることや、終わっていない課題の答えを写すだけの作業は、いわゆる手段の目的化であるといえます。そういうときにおいては、例えば、(一部の方に怒られてしまうかもしれませんが) 自分にあった問題集をすることの方がよいではないでしょうか。授業を受けることは、先生方のためではなく、自分自身のためであること他なりません。授業を受けることは、義務ではなく、権利です。この学校生活の主たる部分に、受け身にならず、主体的に取り組みましょう。ただし、先生方も人間であるゆえ、その関係は大切にしてくださいね。

次に、学習塾について。塾に行くことはとても有効な手段といえます。かくいう私は、塾に行きませんでした。自学では自分のやっている勉強が本当に正し

いのかと、特に直前期は不安になったものです。塾は先輩方が踏み固めた道を案内してくれるので、精神的な安定感は大いだと思います。しかし塾は学校と違い、利益を求めめる一般企業であるゆえ、その塾生は言ってしまうとただの顧客です。過剰表現かもしれませんが、このくらいの認識でもよいでしょう。特に、受け身でいる人は恰好の餌食となるでしょう。もし塾のプログラムだけやって合格できるのなら、なぜどの塾も「全員合格」として宣伝しないのでしょうか。自分が必要とすることに応じて、主体的に取捨選択をする能力はここでも必要になってきます。

以上二つの例を通して、主体的であることの必要性について記してきましたが、それを助ける手段の一つ提案します。それは情報を得ることです。媒体はなんでもかまいませんが、とにかく多種の情報に触れて、対象について知ることが大事です。

受験会場では、そしてこれから先の人生では、先生方も塾もおらず、四六時中自分のそばにいるのは過去の自分です。主体的であることは、自分自身で選択すること。そうしてきた自分は間違いなく、自信満々に自分の背中を押してくれます。

現役合格数の比較

	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年	R3年	R4年
国立	157	180	163	180	152	180	164	146	139	128	161	145	153
公立	47	38	30	39	32	41	42	40	36	42	41	39	53
私立	455	472	550	599	669	753	733	701	604	763	880	951	1110
(国立)													
北海道大	4	6	6	8	4	5	5	6	3	5	5	3	4
東北大	15	12	16	13	9	6	12	9	6	8	6	7	11
東京大	2	5	4	4	1	4	2	5	2	1	1	3	1
名古屋大	5	9	8	20	13	7	13	8	6	7	11	4	8
京都大	3	4	2	3	4	2	0	2	0	1	4	3	4
大阪大	1	8	9	6	1	4	1	6	2	1	3	4	3
九州大	1	2	0	0	3	1	0	1	1	1	1	2	2
一橋大	0	2	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	3
東京工業	2	2	1	0	0	0	1	0	2	1	1	2	1
医学部医学科	4	1	4	7	4	5	6	2	5	5	6	4	4
計	37	51	51	62	40	34	40	40	28	31	39	32	41
筑波大	1	1	1	1	0	4	1	1	7	4	4	6	2
お茶の水女子大	1	2	3	2	3	1	0	2	1	0	5	1	1
千葉大	8	8	8	6	6	10	12	7	6	9	5	10	11
横浜国立大	3	4	6	10	3	10	5	4	4	4	4	3	4
計	13	15	18	19	12	25	18	14	18	17	18	20	18
静岡大	33	55	31	37	32	44	35	25	41	30	37	45	35
静岡県立大	13	13	10	9	8	9	14	13	6	11	19	13	19
(私立)													
早稲田大	11	11	14	10	10	15	1	7	7	7	7	12	14
慶應義塾大	10	10	8	4	7	10	2	3	5	4	5	4	5
上智大	3	3	3	4	2	6	0	4	1	1	2	4	4
東京理大	36	3	30	41	29	35	27	27	20	9	15	23	21
中央大	9	19	22	21	16	18	25	15	17	15	35	29	36
明治大	25	25	43	32	28	32	23	21	15	18	31	27	53
立教大	11	9	29	21	22	17	13	4	8	8	18	11	14
同志社大	0	5	14	12	5	5	5	4	8	9	5	15	18
立命館	14	15	25	30	27	25	25	18	17	46	28	20	47

医は名大
医1を含む
(H25)

医は東北大
医1を含む
(H28)

医は名大
医1を含む
(H31)

医は防衛
医1を含む
(R2)

医は東北大
医1を含む
(R4)

◆進路課より◆

この「進路室だより」が配付されるころ、卒業生たちはどんな生活を送っているのだろうか。不安で不確実な日々を送っているかもしれない。すべての人が第一志望の合格を勝ち取れるわけではないというのは当然のこと。しかし、だからこそ精一杯前向きに取り組むしかない。これから入試に挑む皆さんが満足のいく結果を得られることを切に願う。

ぜひ「進路室だより」に寄せられたメッセージに目を通して、進路実現の糧としてほしい。